



法律専攻「演習」
第3次募集



【目次】

1. 募集について
2. 募集に関する注意事項
3. 選考方法
4. ゼミ内容

・植村 勝慶 先生

・福岡 英明 先生

・大江 毅 先生

・森川 隆 先生

・小原 薫 先生

・安田 恵美 先生

・菊田 真司 先生

・山本 健太郎 先生

・坂本 一登 先生

・荻野 徹 先生

・捧 剛 先生

・濱村 仁 先生

・佐古田 真紀子先生

・山口 順平 先生

・佐藤 秀勝 先生

・鈴木 達次 先生

・高山 奈美枝 先生

・中曾根 玲子 先生

・中川 孝博 先生

・廣瀬 美佳 先生

1. 募集について

【募集スケジュール】

第 1 次 募 集
<p>終了しました</p>

※第2次募集の実施は第1次募集の応募状況によって決定します。実施する場合、すべての教員に応募できるとは限りませんので、予めご了承ください。

第 2 次 募 集
<p>終了しました</p>

※第3次募集の実施は第2次募集の応募状況によって決定します。実施する場合の日程等は、決定次第お知らせします。

第 3 次 募 集	
応 募 期 間	2026年3月25日(水)12時~4月2日(木)12時50分
選 考 期 間	2026年4月3日(金)~4月6日(月)
合 否 発 表	2026年4月7日(火)20:00(予定) / K-SMAPY IIにて

【応募方法】

K-SMAPY II より

※ログイン後、上部バナー「アンケート」より応募してください。

※K-SMAPY IIからの応募がなく面接を受けるまたは課題提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPY IIからの応募も行ってください。応募がない場合は無効になります。

2. 募集に関する注意事項

- (ア) 応募期間に必ず応募してください。応募期間外の応募は認められません。
- (イ) K-SMAPY IIからの応募がなく、面接を受ける、または課題の提出だけをしているケースがありましたので、必ずK-SMAPY IIから応募も行ってください。
- (ウ) ゼミごとに募集対象者が決められています。応募登録前に、募集要項で、自分が応募できるゼミはどれかを必ず確認してください。もしも募集対象外のゼミに応募してしまった場合には不合格となりますので、十分注意してください。
- (エ) 担当教員によって選考方法（面接・レポート・テストなど）は異なります。「選考方法」で必ず内容を確認のうえ、応募してください。
- (オ) 毎年ありますが、提出期限を超えたりレポートの提出は認められませんし、面接時間への遅刻・面接の欠席に関する取り次ぎは教務課では行いません。
- (カ) 演習は、月～土の1限～6限の間で開講される予定です。具体的な開講曜時は、時間割の発表時に確認してください。
- (キ) 政治科目の演習は、政治専攻の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」との合併開講です。
- (ク) 合格後に、他のゼミへの変更はできません。
- (ケ) 各教員の連絡先に関する問い合わせにはお答えできません。
- (コ) ゼミ応募に関する問い合わせ先は以下のとおりです。

【問い合わせ先】

教務課	①9時～12時50分 ②13時50分～20時30分
法学資料室（若木タワー7階）	①9時～17時

※月曜日～金曜日で受け付けます。

※日曜日・祝日は学年暦に準じ、授業実施日に限り開室いたします。

[【目次に戻る】](#)

3. 選考方法

希望する教員の選考方法を確認してください。

例年、レポートの提出期限や面接日時を間違えているケースがありますのでご注意ください。

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
甘利 航司			募 集 無 し			
一木 孝之			募 集 無 し			
稲垣 浩			募 集 無 し			
植村 勝慶	・3年次当該ゼミを履修していた新4年生					すでに提出済みのレポートに基づいて選考を行います。
大江 毅	・新3年生 ・新4年生 ・編入生	レポート	提出方法 アンケート画面で回答	締切日時 4月2日(木)12:50	ゼミ志望理由について	(書式)指定しない (字数)制限なし
浦町 謙太郎						

法学部法律学科法律専攻「演習」

第3次募集要項

令和7年度3・4年生他対象

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
小川 亮					募集無し	
桶田 和子					募集無し	
小原 薫	・3年次当該ゼミを履修していた新4年生		3年次当該ゼミを履修していた新4年生のみが応募することができ、レポート及び面接の課題は免除されます。			
菊田 真司	・新3年生 ・新4年生 ・3年次当該ゼミを履修していた新4年生 ・編入生 ・転部・転	レポート	面接時持参		自己紹介とゼミの志望理由	(書式)A4 (字数)1,000字程度
		面接	4月3日(金)12:30~13:30		若木タワー7階 0712 研究室	
川合 敏樹					募集無し	
川村 尚子					募集無し	
古賀 純子					募集無し	
坂本 一登	・3年次当該ゼミを履修していた新4年生		3年次当該ゼミを履修していた新4年生のみが応募することができ、レポート及び面接の課題は免除されます。			

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
捧 剛	・新3年生 ・3年次当該ゼミを履修していた新4年生 ・編入生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 sasage@kokugakuin.ac.jp	選択した英文の概要とその内容に対する自分の意見	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	4月5日(日)20:00		
		面接	4月6日(月)12:00~13:00		オンライン	
佐古田 真紀子	・新3年生 ・編入生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 sakota@kokugakuin.ac.jp	自己紹介 ゼミ志望の動機 ゼミに期待すること	(書式)Word (字数)1000字
			締切日時	1月10日(土)12:50		
		面接	4月6日(月)15時30分~16時30分		若木タワー8階 0805 研究室	
佐藤 秀勝	・新3年生 ・編入生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	①自己紹介 ②民法ゼミを志望する理由 ③メールアドレス	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	4月2日(木)12:50		
		面接	4月3日(金)15:30~(応相談)			
芝崎 祐典	募 集 無 し					
鈴木 達次	・3年次当該ゼミを履修していた新4年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	自己紹介文 (なお、3年次当該ゼミを履修していた新4年生は提出不要)	(書式)指定なし (字数)800字程度
			締切日時	4月2日(木)12:50		
高内 寿夫	募 集 無 し					
高山 奈美枝	・新3年生 ・新4年生	レポート	提出方法	メール送付 kym079299@kokugakuin.ac.jp	本ゼミを希望する理由	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	4月2日(木)12:50		
羅 芝賢	募 集 無 し					
中川 孝博	・新3年生 ・新4年生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	演習を続ける理由	(書式)自由 (字数)自由
			締切日時	4月2日(土)12:50		

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
中曽根 玲子	・3年次当該ゼミを履修していた新4年生		3年次当該ゼミを履修していた新4年生のみが応募することができ、レポート及び面接の課題は免除されます。			
長又 高夫	募 集 無 し					
平地 秀哉	募 集 無 し					
廣瀬 美佳	・新3年生 ・新4年生 ・編入生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 uh-kun@kokugakuin.ac.jp	自己紹介(関心のある問題等を中心に)&志望理由;送付するメールの件名に「2026年度廣瀬ゼミ志望」と明記すること	(書式)Word文書(拡張子は.docないし.docx)でA4縦・横書/余白は上下左右とも25mm/50字×48行(字数)2,000字以内(あくまで上限ですので、短くても可)
			締切日時	4月2日(木)18:00		
		面接	4月3日(金)14:00~(以降20分刻み)		オンラインにて	
藤嶋 亮	募 集 無 し					
福岡 英明	・新3年生 ・新4年生 ・編入生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メールで送付 hfukuoka@kokugakuin.ac.jp	興味あるテーマとその理由	(書式)自由 (字数)200字
			締切日時	4月2日(木)12:50		
本久 洋一	募 集 無 し					

教員名	募集対象	選考方法	提出方法・レポート締切		レポート内容	備考
			面接日時		面接方法	
森川 隆	・新3年生 ・編入生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	アンケート画面で回答	自己紹介文	(書式)ワード 字数：800字程度
			締切日時	4月2日(木)12:50		
安田 恵美	・新3年生 ・3年次当該ゼミを履修していた新4年生 ・編入生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 OpolitiqueOpenal0@gmail.com	ゼミで取り組んでみたい研究テーマと検討対象	(書式)word、A4用紙、横書き (word等テキスト作成ファイルで作成すること) (字数)1200字程度
			締切日時	4月2日(木)13:00		
山下 裕樹	募集無し					
山本 健太郎	・新3年生	レポート	提出方法	メール送付 kenyamamoto@kokugakuin.ac.jp	ゼミを志望する理由	(字数) 800字
			締切日時	4月2日(木)12:50		
荻野 徹	・現2年生 ・すべての現3年生	レポート	提出方法	メール送付 ogino@biglobe.jp	クマ被害対策についての法的な観点からのコメント(1000時程度) + 自己紹介 (200字程度)	(書式) A4 (字数) 1200字程度
			締切日時	4月2日(木)17:00		
		面接	4月6日(月) 14:00~17:00		追って公開します。	
濱村 仁	・新3年生 ・新4年生 ・編入生 ・転部・転科・転専攻生	レポート	提出方法	メール送付 26enshu.kokusaiseiji@gmail.com	志望理由、関心のある国際問題、ゼミに期待すること	(書式) WordないしPDF (字数) 自由
			締切日時	4月2日(木)12:50		
		面接	4月4日(土) 13時30分~15時30分		オンライン	
山口 順平	・新3年生 ・新4年生 ・3年次当該ゼミを履修していた新4年生	レポート	提出方法	メール送付 yamaguchijunpei.kokugakuin@gmail.com	あなたが最も興味・関心をもつ現代政治の問題 (演習論文のテーマに設定したい問題)	(書式) Word (字数) 1600字
			締切日時	4月2日(木)12:50		
		面接	1月15日(木) 14:30~16:00		追って公開します。	

4. ゼミ内容

[【目次に戻る】](#)

教員名	植村 勝慶
演習テーマ	憲法判例でディベート（闘論）しよう！
演習内容	<p>法廷教室で、検察官や弁護士、原告や被告、裁判長の役になり、裁判風でディベート（闘論）します。「裁判風」と言っても厳密な裁判手続で行うわけではありません。お互いの立場を決めて主張を行うという程度です。教員は、傍聴人に徹します。憲法判例を切り口として、一人ひとりが「かけがいのない存在」であるという「人権」の視点から、豊かで楽しく一緒に暮らしていける共生社会のありようを考えます。具体的には、人権に関する判例を素材に、それぞれの立場から主張を展開してもらいます。</p> <p>このゼミでは、学期末など年に数回の呑み会があり、夏合宿があります。いずれも、ゼミ活動の一環として、よろしくお付き合いください。授業以外でも、3年生・4年生・教員の垣根なく、お互いにコミュニケーションをとり、気楽にディベートできる雰囲気をつくりましょう。</p> <p>なお、今回の第3次募集は、応募手続を忘れた「3年次当該ゼミを履修していた新4年生」のみを対象として行います。それゆえに、選考方法が通常とは異なる点につきご理解ください。</p>
教科書	毎回使用する判決文については、教員が印刷し配布する。
参考文献	長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ（第8版）』（有斐閣、2025年）などの各自で憲法判例集を購入されたい。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	大江 毅
演習テーマ	民事訴訟法演習
演習内容	<p>この演習は、民事訴訟法に関する理解を深めることを最終的な目標とします。</p> <p>令和8年度の演習では、民事訴訟に関する文献を素材に討論するとともに、ゼミ生各自が取り組みたいテーマについて、最終的には論文ないしレポートの形に仕上げることを目指したいと考えています。もっとも、ゼミは受講生が創りあげるものだと、担当教員は考えています。他に組み組んでみたいテーマや事柄があれば、応募のためのレポートの中で適宜申し出てください。具体的な授業スケジュール・使用教材等については、受講生と相談して決めます。なお、令和7年度は、民事訴訟法・民事執行法に関する文献の輪読中です。</p> <p>ゼミ生の選考は、提出されたレポートを資料として行います。レポートには、ゼミ生の意向を可能な限りゼミ運営に反映させるため、少なくとも、ゼミ志望理由、ゼミで取り組みたいテーマないし課題、ゼミへの要望等について記述し（箇条書きでよい）、K-Smapy IIのアンケート画面から応募してください。ただし、現ゼミ生については、レポートの提出を免除します（応募は必須です）。</p>
教科書	追って指示します。
参考文献	追って指示します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	小原 薫
演習テーマ	現代日本を取り巻く政治と思想について考える
演習内容	<p>今、我々を取り巻く政治、社会の状況は大きな転機を迎えている。安全保障、日米関係、外国人問題も、大きな論点となっている。その中で、我々は何を選択するのか。戦後81年を迎える2026年は、今の日本を取り巻く政治、社会の問題について、その背景の思想を含めて議論をしていく。</p> <p>前期は、岩波新書を中心に講読し、討論を行う。後期は、それぞれが関心のあるテーマについて調査し、中間発表を行い、最終的にレポートにまとめることを目指す。</p> <p>レポート作成のために、合宿を行うこともあるので、課外の活動にも関心のある学生の参加を求める。</p>
教科書	指定しない
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>荻田 真司</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>AI と民主主義</p>
<p>演習内容</p>	<p>2022年11月のChatGPTの公開以後、生成AIは急速な発展を遂げつつあり、既に情報収集の重要な手段になると同時に、さまざまな判断の補助として重要なパートナーになっています。</p> <p>それでは、このAI時代における政治とはどのようなものになるのでしょうか？日本でもAIを政治の場で有効活用する「デジタル民主主義」の動きが始まっていますが。テクノロジーがもたらす未来を悲観的にとらえるか、民主主義をバージョンアップするための重要な手段としてとらえるかで、その評価は大きく分かれています。</p> <p>この演習では、具体的な「デジタル民主主義」の方法とその背景にある基本的な概念を再検討し、AI時代の民主主義について、広い視野から考えてみたいと思います。</p> <p>演習は、指定されたテキストを読み、担当者が報告した後で、全員で討論する形で行われます。また、演習参加者には、自分で決めたテーマについての論文を執筆してもらい、論文報告会で報告してもらいます。</p> <p>選考にあたっては、議論に積極的に参加する意欲のある人を優先します。</p>
<p>教科書</p>	<p>李 舜志、『テクノ専制とコモンへの道 民主主義の未来をひらく多元技術 PLURALITY とは?』、集英社新書、2025年</p> <p>橘 玲、『テクノ・リバタリアン 世界を変える唯一の思想』、文春新書、2024年、など</p>
<p>参考文献</p>	<p>オードリー・タン、E・グレン・ワイル、『PLURALITY 対立を創造に変える、協働テクノロジーと民主主義の未来』、2025年</p> <p>ヤニス・バルファキス、『テクノ封建制 デジタル空間の領主たちが私たち農奴を支配する とんでもなく醜くて、不公平な経済の話』、集英社、2025年、など</p>
<p>備考</p>	<p>・面接日に都合が悪い等の連絡や、演習内容についての質問は、karita@kokugakuin.ac.jpまでメールで送ってください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	坂本 一登
演習テーマ	戦前の政党と議会政治
演習内容	<p>2024年は、選挙の年であった。1月の台湾総統選挙をはじめとして、韓国、インド、英国、フランス、イランと続き、11月には米国大統領選挙がある。選挙は、各国の政治を大きく変貌させ、新たな政治の動きが始まっている。日本においても、自民党および立憲民主党の新リーダーを選ぶ選挙が続き、新たな政党政治および議会政治が模索されている。こうした状況に鑑み、来年度は、戦前日本の政党政治および議会政治の歴史をふり返り、日本政治の将来を考察することを狙いとする。現代においても、2009年政権交代が実現し、民主党政権が誕生した時、日本における二大政党制の可能性が、しきりに論じられた。それから、15年、二大政党制確立の可能性は遠のいたように見える。それでは、戦前の日本では、約8年間とはいえ、なぜ政党内閣の時代が誕生し、なぜそれが崩壊したのか、その経緯を考察することは、今後の日本の政治を考える示唆を与えてくれるかもしれない。まず昭和戦前期の政党や議会史を概観するところからはじめ、21世紀の政治を念頭におきながら、政党政治の可能性や議会政治とは何かを考えていきたい。</p> <p>なお、演習は、前期は文献講読、後期は論文作成をおこなう。前期講読における報告と後期の小論文の完成は、単位取得のためには必須である。演習なので、全回出席が原則であり、無断欠席の場合は、除名することがあるので、留意すること。</p>
教科書	勝田龍夫 : 重臣たちの昭和史上下巻 文春文庫
参考文献	栗屋憲太郎 : 昭和の政党 岩波現代文庫 筒井清忠 : 昭和戦前期の政党政治 ちくま新書 小山俊樹 : 五・一五事件 中公新書 古川隆久 : 戦時議会 吉川弘文館
備考	面接時間が不都合な場合は、メール (kazutos@kokugakuin.ac.jp) にて相談すること。対応可能です。

[【目次に戻る】](#)

教員名	捧 剛
演習テーマ	<p>ちょっと専門的な英文を読みたい。 ついでに、それをもとに意見を述べてみたい。</p>
演習内容	<p>この演習は、たとえ現在はほとんど英文が読めなくても、種々の目的のために(もちろん、単なる好奇心でも OK です)、英語で書かれたちょっと専門的な文章を読みたい、そして、願わくは、現在よりは、そうした英文をよりよく読めるようになりたいという人向けのものとなっています。</p> <p>そのために、毎回、事前に配布された英文(おそらく、その多くは新聞記事になると思います)の日本語訳を公表してもらいます(英文の長さや難易度は、参加者のスキルにあわせて調整するつもりです)。そして、その内容について各人が思ったこと、感じたことを日本語で述べてもらおうと思っています。</p> <p>面接(5～10分程度)においては、主として、なぜ、この演習を志望するのかをお聞きすることになりますが、それに先だって、自分の「やる気」を示す材料として、以下の URL のいずれかにアクセスして、そこにある英文記事のどれか1つに目を通し、その記事が扱っている問題について自分はどのように考えるかを日本語で書いたものをメールでお送りください(形式、字数はご自由に。ただし、どの記事を読んだのかがわかるように、記事の英文タイトルを必ず記載してください)。なお、現在この演習を履修している3年生については、選考を免除します。</p> <p>(1) https://www.theguardian.com/law (2) https://www.independent.co.uk/voices/ (3) https://www.bbc.co.uk/news/uk</p>
教科書	なし
参考文献	なし(それほど難しくない[と思われる])英文資料(主として、新聞記事)を、毎回配布します。
備考	なし

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐古田 真紀子
演習テーマ	民事手続法の事案について議論する
演習内容	<p>民事手続法の近時の重要判例を取り上げて、その論点を深く掘り下げます。毎回のゼミでは、報告担当チームが報告を行った後、ゼミ生全員がざくばらんに質問や意見を出し合います。ゼミ生同士の話し合いを通して理解を深め、徐々に手続法的な考え方を修得していきます。</p> <p>一定の要件を満たす場合は、ゼミ生のみなさんの意向により、例年10月に開催される民事訴訟法合同ゼミナールに参加することができます。合同ゼミには、北は北海道、南は沖縄まで全国の大学から約17ゼミ300余名の民訴ゼミ生が集います。それまでの期間、ゼミ生は協力し合って準備を重ね、合同ゼミ当日は、他大学のゼミと楽しく充実した討論を行います。前日の開会式では、各ゼミのゼミ長によるユーモアたっぷりのゼミ紹介があり、また、討論終了後の懇親会では、他大学の学生や教員と交流を深めて盛り上がります。なお、討論に勝敗はありません。異なる観点から意見を交換することで、問題点をより深く掘り下げて理解することを目的とします。この活動を通して、論理的思考能力・叙述能力を養成するのはもちろんのこと、各人が主体的・計画的に行動しつつ、チームで協働して目的を達成した経験は、就職活動で、また社会に出ても、大いに役立つことでしょう。</p>
教科書	教科書は使用しません。使用する教材は、授業中にその都度、指示します。
参考文献	<p>伊藤真 『民事訴訟法（第8版）』（有斐閣）</p> <p>高橋宏志 『重点講義民事訴訟法上下（第2版補訂版）』（有斐閣）</p> <p>高橋宏志他編 『民事訴訟法判例百選（第6版）』（有斐閣）</p>
備考	<p>民事訴訟法 IAB、民法総則、債権各論、債権総論、物権の講義を履修済みであるか、同時に履修することが必要です。</p> <p>質問がある方は、sakota@kokugakuin.ac.jp までお気軽にご連絡ください。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	佐藤 秀勝
演習テーマ	判例研究または事例問題の検討
演習内容	<p>1. 演習の目的</p> <p>・この演習の目的は、最高裁判決または事例問題の検討を通じて民法の理解を深めることにあります。皆さんはこれまで、講義等を通じて民法の基本的な知識を身につけてきたと思いますが、それらの知識は具体的な紛争を解決することができてはじめて「生きた知識」になると言えます。そこでこの演習では、判決または事例問題を検討し、他の人とのディスカッションを通じて「生きた知識」を身につけることを目指します。</p> <p>(以上は、現時点で担当者が考えている内容です。演習で具体的に何をするかは、開講時に履修者の希望等も考慮しながら相談して決めます。)</p> <p>2. 演習の内容・進め方</p> <p>・進め方に関しては開講時に相談して決めます。</p> <p>・学生が主体となったゼミ運営を目指します。</p>
教科書	開講時に指示します。
参考文献	開講時に指示します。
備考	<p>1. 次の場合には除籍等の対処をします。</p> <p>①無断で欠席した場合、②欠席につき連絡をしたが、その理由が欠席を正当化するものとは言えない場合、③正当な事由による欠席を6回以上した場合、④遅刻・早退をした場合（公共交通機関の遅延を除く）</p> <p>2. 連絡先を知る必要がありますので、レポート提出の際にメールアドレスを正確に記載してください。</p> <p>3. 面接に関して、予定されている日時に不都合がある場合、相談に応じますので連絡をください。なお、やむを得ない事情がある場合にはオンラインでの面接にも対応します。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	鈴木 達次
演習テーマ	会社法判例研究
演習内容	<p>【内容】 会社法の基礎判例を取り上げて研究を行います。 皆さんの多くは、現在会社法の講義を受けているか、あるいは過去に受けたことと思います。しかし、民法や刑法と異なり、会社法は抽象度が高く、講義だけでは、それがどのように適用されるか、イメージすることは難しかったでしょう。そのためには、具体的な事案（判例）に即して適用関係を学ぶ必要があります。このゼミが会社法の基礎判例を取り上げるのはそのような理由からです。 会社法は会社組織のあり方や取引相手との関係にまつわる法律問題を解決するルールです。大学時代にしっかり学んでおきましょう。</p> <p>【運営】 司会者の進行にしたがって報告者が基調報告を行い、それに基づいて受講生全員が討論します。報告者はレジユメを用意し、それ以外の方もちゃんと予習をしてくる必要があります。 最初のうちは難解に思えるでしょうが、毎週予習してゼミに臨むことにより、少しずつ問題点が分かってきます。議論も活発にできるようになり、徐々に会社法が面白く感じられるようになるでしょう。やがては「中毒」といいほどゼミにのめりこむこととなります。</p> <p>【成績評価】 司会、報告および討論の内容により総合的に評価します。なお、正当な理由なく遅刻・欠席した場合には単位は認定されません。</p>
教科書	第1回講義の際説明します。 なお、六法は毎回持参してください。
参考文献	第1回講義の際説明します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	高山 奈美枝
演習テーマ	民法演習
演習内容	<p>この民法演習では民法の基本を習得することを目的とします。民法の基礎についてはある程度すでに学習されていると思いますが、より根本的に考察できるよう、その方法論から学んでいきます。すなわち条文を中心として民法の規定する諸制度、および判例・学説を整理し、より明晰な形で問題を提起・検討を行い、結論を導くことを試みます。またさらなる調査・研究を行っていきけるような力をつけるため、資料収集や発表の方法についても学んでいきます。民法の財産法ならびに身分法のすべてを対象の中心としながら、それぞれの関心に応じた課題を見つけていただいで結構です。</p> <p>民法は〈私〉の生きるためのルール集合です。それは大変豊かな内容と大きな歴史を有しています。そのようなことも学ぶ機会にしていきたいと思ひます。</p>
教科書	適宜指示します。
参考文献	適宜指示します。
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	中曾根 玲子
演習テーマ	会社法・金融商品取引法を巡る事例を考える
演習内容	<p>社会を騒がせた有名な事件（ニュース）であっても、法的な論点は何であったのかは意外と知られていないことが多い。本演習の最終目標は、会社法（金融商品取引法を含む）に関連するニュースを取り上げ、問題の背景や法的問題点を調べ、法規制の意義を考えることである。</p> <p>ゼミでは、能動的な学修やコミュニケーション能力を高めることを重視し、3・4年混在のグループワークを主体に進める。前期では、会社法・金融商品取引法の基礎知識を学習し、後期には、個別発表と12月には学内の他の商法ゼミとの合同事例問題検討会を行う。また東京証券取引所や日本銀行の見学、ゼミ合宿を行う（予定）。</p> <p>広く経済社会の出来事に対して興味や問題意識を持ち、ゼミ活動に積極的に取り組む意欲のある学生の参加を期待したい。なお、本ゼミは2026年度限りのゼミとなる。</p>
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ●会社法・金融商品取引法に関するテキストについては、ゼミ初日のガイダンスで説明する ●指定六法（最新版が望ましい）
参考文献	その他、必要な参考文献は適宜指示、または演習内で配付する
備考	2年次に「会社法の基礎」を履修していることが望ましい。あるいは、3年次にゼミと並行して履修することが必要である。

[【目次に戻る】](#)

教員名	中川 孝博
演習テーマ	刑事訴訟法研究会
演習内容	3年次に本演習に参加し、引き続き4年次にも参加したい方は応募してください。自らテーマを設定して本格的な論文を執筆することが演習内容となります。
教科書	
参考文献	阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』（光文社、2024年）
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	廣瀬 美佳
演習テーマ	私たちを取り巻く社会と医療と法(仮)
演習内容	<p>本演習では、基本的には、初回の授業で履修者と相談の上、その年度のテーマを決めることとなります(2025年度は、一応、担当教員の方で、本人のライフワークであり医事法の授業でも講義しているところをテーマに掲げたところ、これに興味をもった学生が応募・履修することとなり、前期～後期を通じて、過剰医療・再生医療・性同一性障害・トリアージ・オーバードーズ・美容医療&広告・ヒト組織&胚の法的地位・心神喪失者等医療観察法・ALS 殺人事件等、履修者がそれぞれの関心のあるテーマにつき、調べて報告をするという形で途中でテーマを軌道修正等することもあり得ますが一進めています)。</p> <p>ですので、2026年度についても、上記のように、医療問題を一応のテーマとしておきますが、面接時に履修(希望)者それぞれがこういった方面に関心を持っているか等につき把握した上で、最終的には、年度初回の授業時に全員が顔を合わせたところで、全体テーマ/個別テーマ、半期ないし通年のゼミの進め方などにつき、相談の上、決定する予定です。但し、担当教員の専門性との関係で、医療問題ないしその周辺を扱うこととした方がよりスムーズなゼミ運営につながるでしょうし、例えば憲法や刑法は全くの専門外ですので、いずれにしても、民法そのもの、あるいは医事法でも民法の観点からアプローチすることを中心に勉強していくことになるものと思われます。</p>
教科書	授業時等に適宜指示します。
参考文献	授業時等に適宜指示します。
備考	<p>(01) 事前の志望理由等(レポート)提出について： 必ず、提出締切日である 2026. 04. 02. (木)18:00 までに廣瀬のアドレス uh-kun@kokugakuin. ac. jp 宛に着信するよう、送付すること(その際、04. 03. (金)の 14:00～の時間帯に面接を受けることが「学内行事やアルバイト等と重なっている」等の理由により不可である場合には、その旨一代わりの面接可能日時(㊦04. 06. まで+04. 02. 午後&04. 04. 終日を除く)があれば、その点をも含めて一明記すること)。<u>折り返し、面接用の Zoom の招待状をお送りします&レポートを提出しないと面接を受けられなくなるので、注意すること(第1次募集&第2次募集ではレポート未提出で不合格となった応募者が複数いましたので、念のため)。</u></p> <p>(02) 選考日時について： 事情により当該日時に面接を受けられない場合は、予め、その旨申し出ること(上記(01)参照)。なお、面接の終了時刻は応募人数により前後するため明記しない&面接に要する時間は応募者 1 人につき 15 分程度を目安とします。</p> <p>(03) 履修者数について： 全員による議論を成立させるため、新 3・4 年生合わせて 20 名程度を上限としたい。</p>

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>福岡 英明</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>簡単な事例問題を解きながら、基礎知識を確認し、思考力を高める</p>
<p>演習内容</p>	<p>「フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤」という演習書を利用して、簡単な事例問題を解きながら基礎知識を確認していきます。</p> <p>毎回、1問解くことを目指しますが、実際には、1問解くのに3回くらいかかると思います。</p> <p>とくに各回の担当者は決めずに、教員と学生、あるいは学生同士の問答により演習を進めます。具体的には、参加人数にもよりますが、4～5人のグループに分かれて議論し、グループごとに発表してもらいます。</p> <p>基礎知識があやふやなところがあれば、その都度、教員が補足的な説明をします。</p> <p>どのような順序で考えていけば、結論にたどり着けるのかを教員・学生間でのディスカッションを通じて体得できればと思います。</p> <p>1・2年次に憲法を履修したけれども、なんだか心もとないと感じている学生でも、あるいは、なんで単位が取れたのか自分でも不思議に思っている学生でも気軽に参加できる演習をしたいと思います。</p>
<p>教科書</p>	<p>加藤一彦・阪口正二郎・只野雅人編著「フォーカス憲法 事例から学ぶ憲法基盤」北樹出版</p>
<p>参考文献</p>	<p>適時、必要なものをコピーして配布する。</p> <p>また、使用する教科書に問題ごとの参考文献が提示されているので、興味があれば読むとよい。</p>
<p>備考</p>	<p>K-SMAPY II で登録せずに、メールだけ送ってくる学生がありますが、必ず登録したうえで、メールを送ってください。</p> <p>夏休み中の合宿を行う予定はありません。</p>

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>森川 隆</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>まんがで学ぶ企業法（特に株式会社法）ゼミ</p>
<p>演習内容</p>	<p>【内容】 皆さんが株式会社をイメージするのは難しいかもしれませんが、株式会社は、経済を支える重要な存在であるだけでなく、皆さんの多くが就職する場ともなります。本演習では、そのような株式会社をめぐる法的な規制（会社法上の規制）について、まんがを用いて検討していきます。その際は、講義科目である「会社法の基礎」「株式会社法ⅠA・ⅠB」等の復習又は予習も兼ねて、見ていく予定です。</p> <p>【運営】 司会者による司会進行の下で、報告者が報告を行い、それに基づいて全員で議論します。報告者には、レジメを作成して報告を行っていただきます。受講生の人数の関係上、複数人でチームを組んで司会・報告を担当していただく可能性もあります。そのほか（懇親会等）は、受講生のノリ次第とします。</p> <p>【成績評価】 無断欠席がないことを前提として、司会・報告・発言の内容により成績を評価します。</p> <p>【講義科目】 「会社法の基礎」を履修していない人は、本演習の履修と併行して同科目を履修してください。本演習の内容は、「株式会社法ⅠA・ⅠB・Ⅱ」「商取引法A・B」とも関係します。そこで、それらの科目も履修していただくことをお勧めします。</p>
<p>教科書</p>	<p>弘兼憲史『社外取締役 島耕作』（講談社）、周良貨＝能田茂『監査役 野崎修平』（集英社）、田島隆＝東風孝広『カバチ!!!—カバチタレ!3—』（講談社）、本宮ひろ志『サラリーマン金太郎』（集英社）、三田紀房『インベスターZ』（講談社）、神海英雄『株式会社5年1組』（集英社）等、多数（詳細は、第1回・オリエンテーションで説明します）。</p>
<p>参考文献</p>	<p>伊藤靖史ほか『リーガルクエスト 会社法』（有斐閣） 市販の『六法』が必携となります。</p>
<p>備考</p>	<p>レポートについては、ご自身の長所（短所）、これまで頑張ってきたこと、入学後に勉強してきたこと、将来の進路の希望、担当教員への要望などを自由に記述していただいて構いません。ここ数年は演習を担当していないことから、本演習は、3年生のみで構成します。3年生+担当教員で和気あいあいできればと思います。</p>

[【目次に戻る】](#)

<p>教員名</p>	<p>安田 恵美</p>
<p>演習テーマ</p>	<p>「犯罪をした人」への対応を考える</p>
<p>演習内容</p>	<p>令和7年6月に懲役刑・禁錮刑が廃止され、「拘禁刑」が導入されました。これは犯罪をした人の「改善更生」に向けた作業や教育、支援を強化するための改正だとの説明があります。そもそも「改善」「更生」とはどのような状態を指す言葉なのでしょうか。前期は、拘禁刑に関する文献を精読し、ディスカッションを行います。後期は、前期の内容を踏まえ、各々が設定したテーマについてレポート（1万字程度）の執筆作業を行います。「問い」の設定、論文の構成を考える作業、そして、グループ内での添削作業といった作業をゼミの時間内に行います。</p> <p>このほかに、他大学との合同討論会、フィールドワーク・刑事施設等の見学、実務家等への聞き取り調査等を行うこともあります。これらのイベントは夏休み等の授業外の時間に実施することがあります。</p>
<p>教科書</p>	<p>武内謙治＝本庄武『刑事政策学』（日本評論社、2019）</p>
<p>参考文献</p>	
<p>備考</p>	<p>応募の際には、演習で取みたいトピックに関するレポートをopolitiqueopenal0@gmail.comに送信してください。その際、理論・法制度・実務等の現状とそこに存する問題点に必ず言及してください。また、メールの本文には、面談希望時間と面談の方法（zoomか対面か）についても記載してください。面談の詳細については、メールにてご連絡します。</p>

[【目次に戻る】](#)

教員名	山本 健太郎
演習テーマ	Z世代と政治・社会
演習内容	<p>いわゆる「Z世代」の中心に位置する皆さんから見て、政治や社会の課題はどのように映っているのでしょうか。担当教員が専攻する日本政治においては、ソーシャル・メディアの存在感が大きくなるにしたがって、世代による「政治の見え方」が変わっているのではないかと考えられます。他方、これからますますZ世代が社会の中心に躍り出るにつれて、社会の側がZ世代をどうとらえ、どう分析するかということも問題になってきています。</p> <p>このゼミでは、Z世代にとっての政治・社会のリアリティをゼミ生の皆さんから提示してもらったとともに、少し上の世代から見てZ世代がどのように分析されているかについても検討していきます。つまり、「自分たちはどう考えているか」に加えて、「自分たちは（他者から）どう見えているか」を知ることで、みなさんの自己分析につなげてもらえればと考えています。</p> <p>具体的なテーマとして想定しているのは下記のような内容です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Z世代とソーシャルメディアと選挙・政治 ・ 消費者・勤労者としてのZ世代 ・ 少子化の行方とZ世代のリアル <p>本ゼミでは、最終的に個人で関心を持ったテーマについてのプレゼンテーションをしてもらう予定です。出席は基本的に義務ですので、やむを得ず欠席する場合は事前連絡が必要になります。無断欠席が続く場合は、不可／除籍とすることがあります。</p> <p>なお志望理由レポートには、①メールアドレスと学籍番号・学年・氏名、②「最も関心を持っている社会問題」を含めておいてください。</p>
教科書	<p>初回のゼミで紹介しますが、下記のことを想定しています。</p> <p>舟津昌平（2024）『Z世代化する社会：お客様になっていく若者たち』東洋経済新報社。 メアリー・ブリントン（2022）『縛られる日本人：人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか』中公新書。</p>
参考文献	ゼミで適宜紹介します。
備考	質問・問い合わせ先：kenyamamoto@kokugakuin.ac.jp

[【目次に戻る】](#)

教員名	荻野 徹
演習テーマ	判例で学ぶ行政法
演習内容	<p>本ゼミでは、行政法の判例をじっくりと読み解くことにより、行政法の考え方について理解を深めることを目指します。基本的には、行政法を一通り学んだ人にとって有益な内容を予定していますが、行政の活動について関心があり、行政法を学ぶ意欲があれば、未修者でも、また4年次からでも、差し支えありません。</p> <p>ゼミの進め方は、前期には、二、三の基本判例を取り上げ、参加者全員で判例の読み方・関連文献の調べ方・他の判例との比較・先例拘束性の法理の意義・行政法の一般法理論等について学び、後期には、参加者が各自報告を行い、その報告を基に全員で討議・検討を行う、という形式を予定しています。授業の一環として夏休み（8月下旬―9月上旬）に1泊2日のゼミ合宿を予定しています。</p> <p>【面接について補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・面接日時（4月6日（月）14時00分～17時00分の間）に参加できない者は、なるべく早く、メールにて荻野 (ogino@biglobe.jp) まで連絡してください。オンライン面接又は別日の面接を実施します。 <p>【レポートについて補足】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必ず、電子メールで提出してください。 ・法的にどのような論点があるか（行政法以外の法的論点でも構いません）、それをどう考えるべきか、一応の感想でかまいませんが、法学部生らしいコメントをしてください。（1000字）。また、自己紹介（興味や関心、将来の夢、志望動機など）と連絡先（連絡のとれるメールアドレス）も付記してください。（200字）
教科書	行政法判例百選Ⅰ、Ⅱ
参考文献	
備考	

[【目次に戻る】](#)

教員名	濱村 仁
演習テーマ	国際秩序の危機を考える
演習内容	<p>今世紀初頭には、西側の普遍的価値観が広がり、欧米主導の「リベラルな国際秩序」の下で自由や平和、繁栄が実現するという考えが大きな影響力を持っていました。しかし現在、こうした価値観と秩序は深刻な攻撃にさらされ、瀕死状態に陥っています。これを踏まえて、本演習では、国際政治学の古典であるE・H・カー『危機の二十年』を中心に国際秩序に関する文献を読みます。同書は戦間期に書かれた古い本ですが、19世紀版「リベラルな国際秩序」の崩壊を前に人々が茫然自失としていた時代に、その秩序の矛盾を鋭く分析し、国際政治学を独立した学問として確立した名著です。同書を通じて国際問題を政治学的に考える視点を身につけることは、皆さんが関心を持つ様々なテーマを深く理解するうえでも役立つでしょう。</p> <p>前期は文献講読を行い、後期は各自が選んだテーマに基づいて論文を執筆します。（人数などを考慮して、後期の前半にも文献講読を行う可能性があります。）文献講読では、毎回報告者がレジюмеを作成して報告を行い、他の参加者は事前提出した論点を提起して、全員で議論をします。</p> <p>本演習は2026年度から新しく始まる授業です。授業の進め方や懇親企画など、皆さんの意見を取り入れながら柔軟に対応していきたいと思っておりますので、積極的な提案を歓迎します。</p>
教科書	E・H・カー『危機の二十年』原彬久訳（岩波文庫、2011年）（井上茂の旧訳は避けること） 他の文献は開講時に指定します。
参考文献	佐藤史郎・三牧聖子・清水耕介編『E・H・カーを読む』（ナカニシヤ出版、2022年） 他の文献は開講時に指定します。
備考	レポートには、氏名、学籍番号、メールアドレスを明記してください。 レポートの提出時には、メール件名に「濱村ゼミ志望」と書いてください。 書かれている面接日時では都合がつかない場合は、メールでレポートを提出する際にその旨をあらかじめ伝えてください。

[【目次に戻る】](#)

教員名	山口 順平
演習テーマ	「現代日本の政治と民主主義」
演習内容	<p>この演習は、現代の日本政治と民主主義をテーマとして、現代の政治社会を取り巻く諸課題について、具体的な事例を取り挙げながら検討していきます。特に、近年の日本政治における、不安定な政党政治、新興政党の台頭、人口減少と少子高齢化、消滅自治体、コミュニティ再建、排外主義、政治的主張とSNS戦略といった幅広い課題を取り扱う予定です。</p> <p>こうした日本政治の動向について、演習ではどのように評価すべきか、今後はどうなることが望ましいのかななどを、受講生の皆さんと一緒に考え、議論していきたいと思えます。その際には、欧米諸国との比較や理論的考察も併せて行っていくことを考えています。</p> <p>年間の計画として、前期は文献の輪読と演習論文の構想発表、後期は文献の輪読と演習論文作成状況の報告を行う予定です。授業最終週には、演習論文を完成させて提出してもらいます。</p> <p>演習の目標は、文献の輪読や演習論文の作成を通して、政治学における重要な概念や議論、政治学的・社会的な分析方法を学修し、自らで問題を発見し、論理的に分析し、解決する能力を身につけることです。</p> <p>【選考】 授業時の議論に積極的に参加される方を優先します。</p>
教科書	<p>善教将大（2025）『民度』中公新書 田中輝美（2025）『関係人口の時代』中公新書 中井遼（2025）『ナショナリズムとは何か』中公新書 秦正樹（2022）『陰謀論』中公新書</p>
参考文献	適宜紹介します。
備考	<p>単位取得の条件は、輪読での報告と演習論文の完成が必須となります。その他に、全回に出席することが原則となります。無断欠席された場合は、単位認定とはなりませんのでご注意ください。</p> <p>面接の日時に不都合がある場合や、演習の内容等に関する質問・相談は、(yamaguchi.junpei.kokugakuin@gmail.com) にメールを送ってください。</p>